



第31期 事業報告書

(自令和5年4月1日 至令和6年3月31日)

1 株式会社の現況に関する事項

1-1 事業の経過及び成果

令和5年度は、第5期（令和3～6年度）指定管理協定期間（4年間）の3年目であり、次期指定管理者申請に向けての実績を固める重要な年度でした。5月には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に引き下げられ、人流が本格的に回復しはじめるとともに、規制なく本来の形で開催されるイベントが増加する等、長く続いたコロナ禍の収束を感じられる一年でしたが、一方ではウクライナや中東など不安定な世界情勢の影響による燃料費の高騰や物価の上昇、労務単価の上昇等、当社の経営にとっては依然厳しい環境が続きました。

そのような状況の中、催事・イベント主催者とのコミュニケーションを重視し、主催者をしっかりサポートすることに注力してまいりました。

特に今期は、京都市の修繕計画に基づき、空調機の大規模修繕工事が年度を通して行われましたが、本来であれば休館せずに実施することは厳しい規模の工事を、実施事業者とスケジュールを共有し、主催者はじめ催事関係者との調整を密に進めることで、休館することなく、また、来場者にご迷惑を掛けることなく施設運営を行うことができました。

伝統産業ミュージアムにおいては、京都市の方針により9月から観覧料が設定され、さらなる魅力向上が求められることとなりました。そのため年間を通して無料企画展や季節に合わせた収蔵品展を開催するとともに、旅行代理店と観光クーポン契約を締結し、インバウンドを含めた集客増を図りました。加えて、芸術系大学、京都市産業技術研究所との連携事業もスタートさせ、伝統産業振興に向けた新しい取組も始めています。

ミュージアムショップにおいては、好調なインバウンドが売上を後押しするとともに、恒例となりましたショップ企画展「珈琲とうつわ」、「にゃんと工芸」等が好評を得るなど、商品売上は当初予算を大きく上回ることができました。

また、みやこめッセへの集客増を目的とする岡崎エリアの賑わいの創出に向けて、社内プロジェクトにより実施いたしました「FOOD & CRAFT MARKET」や「岡崎マルシェ」は、好天に恵まれたこともあり大勢の方にお越しいただきました。同じく社内プロジェクトによる子育て関係の事業者との共催で実施した乳幼児を対象とするイベント「わいやーかーにばるきっずうんどうかい&電車あそび」についても、多くの来場者を集め、成功裏に終えることができました。

施設・設備面では、地下1階大会議室前のトイレを温水洗浄機能付き便座に改修を終え、各階のロビーに面したトイレの改修が完了いたしました。また、ソフト面では、国際衛生基準となる「GBAC STARTM認証^{*}」を更新取得いたしました。

※世界的な洗浄業界団体 ISSA にて洗浄、消毒及び感染症予防のプロトコールを実施する施設の運営基準を提唱している部門、Global Biorisk Advisory Council (GBAC) による国際的認証プログラム

(1)業績

燃料費の高騰、物価の上昇、労務単価の上昇等厳しい状況でしたが、施設利用料収入の想定を超えた増収、ミュージアム有料化、好調なインバウンドの後押しを受けたミュージアムショップの商品売上増、販管費の増加抑制等から、営業利益はプラスとなりました。

展示場稼働率については、目標 53%を下回る 46.03%にとどまり、昨年度までの京都市のコロナワクチン接種会場の利用減を埋めることができませんでした。

一方、時間外の利用や付属設備、冷房等の利用が好調であったことや、主催者の様々なニーズを当社が窓口となって調整するワンストップサービスの収入が伸びたこと等から、施設利用料収入は 510,922 千円（前年度比+1,707 千円/100.3%）となり、想定額を大きく上回りました。

また、伝統産業ミュージアムについては、観覧料収入は 6,568 千円と、当初の目標には届かなかったものの、免税売上を含む商品売上が 55,693 千円となり、昨年度実績の 191%（前年度比 +26,595 千円）となりました。特に有料観覧者は約 43%が海外の方となるなど、インバウンドの好調さを実感することができました。

(2)損益

これらにより、売上高全体では 710,000 千円（前年度比+10,470 千円/101.5%）となり、2 期連続で営業利益 1,013 千円（前年度比△890 千円）を計上することができました。

コロナ禍で落ち込んでいた売上高は 7 億円を超えました（710,000 千円）が、これは、展示場の㎡単価が上昇したことに加え、伝統産業ミュージアムに観覧料が設定され、収入の柱が増えたことが寄与したと考えています。

今期は、コロナ関連の補助金収入（非課税雑収入）等が減少したため、営業外収益は 6,221 千円（前年度比△9,177 千円）となりましたが、2 期連続して経常利益 6,630 千円（前年度比△10,476 千円）を計上することができました。なお、今期はあらたに役員退任慰労金にかかる引当金を計上したことでその一部（4,230 千円）が特別損失となることから、当期純利益は 2,220 千円（前年度比△14,706 千円）となりましたが、2 期連続の黒字決算を確保できました。

【参考】

区分	元年度	3年度	4年度	5年度
1株当たり当期純利益(円)	7,802	14,585	9,403	1,233
総資産(千円)	752,069	827,713	741,412	757,188
純資産(千円)	541,746	444,324	461,251	458,071
1株当たり純資産額(円)	300,970	246,847	256,250	254,484

(3) 営業状況

ア 展示場等年間稼働率

昨年度までのコロナ禍における京都市のコロナワクチンの接種会場としての利用（約 17 万㎡／稼働率約 5%相当）減を埋める利用を呼び込めず、稼働率は昨年度を下回る結果となりましたが、主催者とのコミュニケーションの強化とニーズへのきめ細やかな対応等、「顧客目線」に立ったサポートの実践に取り組みました。これについては利用者アンケート等においても高い評価をいただくなど今後の利用の維持拡大につながるものと期待しています。

コロナ感染症の感染症法上の分類が5月に引き下げられて以降、特に下半期に入ってから、制限のない形で開催される催しが多くなり、京都マラソン（2月）や医療系の学術会議（2月）、大学の卒業式（3月）等の大型催事においても、人流の本格的な回復を実感しました。

年間稼働率は、昨年度実績を4ポイント下回る46.03%（開催件数344件）※となりましたが、人流は明らかに回復しており、来館者数は970,283人で、昨年度（900,954人）から約8%増加しました。

※ 4年度稼働率：50.08% 開催件数：368件
元年度稼働率：50.71% 開催件数：376件

イ 伝統産業ミュージアムでの販売事業

ミュージアムショップ店舗においては、インバウンドが好調に推移したことに加え、恒例になりつつある「珈琲とうつわ3rd」、「にゃんと工芸」等のショップ企画展も好評を博し、オンラインショップを含めた売上は61,158千円（前年度比+22,302千円／157%）となりました。

学術会議や周年事業の記念品に京都の伝統工芸品の活用を提案する取組では、MICE関連はまだ回復途上にあり、受注を伸ばすことができませんでしたが、一方で昨年度のオープン時にプロデュースを手掛けた京都東急ホテル東山内のショップ「Craft Editions produced by Kyoto Museum of Crafts and Design」への商品提供は好調に推移したものの、これらを合わせた販売収入は32,294千円（前年度比△6,687千円／83%）となり、前年度から減少しました。

京都の伝統産業を体験・見学できる「工房コンシェルジュ」事業については、事業収入は6,647千円（前年度比+2,212千円／150%）となりました。個人顧

客、団体顧客ともに増加していますが、インバウンドについては、受け入れ可能な工房と通訳ガイドの確保が今後の課題と考えています。

ウ 駐車場利用料収入

自家用車で来館される方が多かったワクチンの接種会場としてのご利用がなくなったこともあり、駐車場利用料収入は、72,103千円（前年度比△4,309千円／94%）となりました。来館者は増加傾向ですが、インバウンドによるところが大きいと思われ、駐車場利用料収入には連動しなかったものと考えています。

1-2 当該事業年度における主要な事業内容

(1) 京都市勧業館みやこめッセ事業

展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの賃貸及び管理運営、催事の企画運営サービス、駐車場管理

(2) 京都伝統産業ミュージアム事業

京都伝統産業ミュージアムの運営、ミュージアムショップ及びオンラインショップ等による伝統工芸品の販売、企画展の実施、京都市受託事業の実施

(3) 自主企画事業

産業振興、文化向上、地域貢献に資する事業の実施

1-3 当該事業年度における主要な営業所及び組織、使用人の状況

(1) 主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

(2) 使用人の状況（令和6年3月31日現在）

区分	従業員数 (人)	前事業年度 末比増減(人)	平均年齢 (歳)	平均勤続 年数(年)
男性	15 (1)	1 (1)	52	8
女性	36 (21)	7 (6)	44	6
合計又は平均	51 (22)	8 (7)	46	7

注 () 内は臨時社員の内数、特定イベントの臨時要員を除く。

1-4 主要な借入先

(令和6年3月31日現在)

借入先	借入金の残高(円)
株式会社三菱UFJ銀行	15,000,000
株式会社京都銀行	15,000,000
京都信用金庫	15,000,000
京都中央信用金庫	15,000,000
合計	60,000,000

2 株式に関する事項

2-1 株式の状況

発行可能株式の総数	4,000 株
発行済株式の総数	1,800 株

2-2 当事業年度末の株主数

9名

株主名	当社への出資状況	
	株式数	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6
京都商工会議所	100	5.6
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
公益社団法人日本図案家協会	100	5.6
株式会社三菱UFJ銀行	90	5.0
株式会社京都銀行	90	5.0
京都信用金庫	80	4.4
京都中央信用金庫	60	3.3
合計	1,800	100.0